

論壇

「貧弱」観光地の魅力半減

ナイトエコノミーという言葉をご存じだろうか。夕方以降の時間の使い方を指している言葉だ。

日本を訪れる海外からの旅行者が日本のナイトエコノミーが貧弱であると言っているようだ。政府の会議などでも話題になる。昼間は観光地巡りや買い物で忙しくしても、夜になるとやるべきことがない。ホテルで食事をするくらいで、つまらないという。たしかにせっかく日本に来たの

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

日本のナイトエコノミー

に、夜にすることがないと観光地の魅力が半減する。自分のことで考えても、海外に会議などでかけるときは、昼間の仕事を離れて夜の会食を囲むことが海外出張の大きな楽しみである。余裕があれば、地元オペラやジャズクラブ

での演奏を楽しむ。ニューヨークやロンドンならミュージカルというのもある。フランスやスペインなど南欧の国は、ディナーが8時や9時という遅い時間から始まる。日本人の感覚から言えば遅すぎるようにも思えるが、ナイトライフをじっくり

り楽しむという意味では理解できない。海外でのナイトライフの充実についての論議は、働き方改革を進める日本にとつても、重要な問題提起をしている。働き方改革とは、休み方改革でもある。仕事だけの

充実で地域の経済振興も

ではない。私たち日本人のライフスタイルへの問いかけでもあり。ところで、静岡のナイトライフは充実しているだろうか。夜の街を訪日外国人の目で見ても、静岡市や浜松市のような都市であれば、レストランなど楽しい時間を持つところはある。しかし、充実しているとは、お世辞にも言えない。ましてや他の市町では、夕方以降はホテルに閉じ込められるしかないように見える。観光の魅力が半減する。訪日客にもっとナイトライフを楽しんでもらうような取り組みができれば、

観光地としての魅力も増して、ちなみに台湾観光の魅力のひとつが夜市である。夜市なら地方都市でもできそうだが、どうだろうか。ナイトエコノミーを充実させることは、観光振興だけではないと申し上げた。私たち日本人のライフスタイルの見直しの重要なポイントだ。そして、地域の経済振興にも重要な意味を持つている。成熟社会の消費は、モノからコトへシフトしている。モノを次々と買うのではない。時間を楽しむのだ。より多くの人がナイトエコノミーに関われれば、それだけコト消費も拡大するはずだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。